

# 北上市の目指す 始動 コミュニティ・スクール

4月から市内の全小中学校で本格的に始動する、コミュニティ・スクール(左ページ上部で解説)。昨年2月から先行して実施している、鬼柳地区の小学校や地域の関係者に、活動についてお話ししてもらいました。

**問い合わせ** 学校教育課 ☎72-8259 / 生涯学習文化課 ☎72-8303



小学校近くでの交通安全指導も活動の一つ

―(聞き手 生涯学習文化課)今回はコミュニティ・スクールを先行的に導入している鬼柳地区の小学校や地域の関係者の皆さんに、開始しての感想や今後の展望など、ざつとばらんに伺いたいと思います。まずは皆さんのコミュニティ・スクールでの役割を踏まえながら自己紹介をお願いします。

**小原純子校長** 鬼柳小学校で校長をしています。鬼柳地区の住民でもあります。

**伊藤成一さん** 地域コーディネーターとして、学校と地域の調整役を担っています。自宅は小原校長の近所です(笑)。

**千田秀一事務局長** 鬼柳町自治振興協議会で事務局長をしています。地域側のメイン担当です。



稲作体験では春に田植え、秋に収穫・食事をし、地域への理解を高める

**学校と地域が理解を深め合うきっかけ**

―先行的にコミュニティ・スクールを始められていかがですか。

**千田(以下敬称略)** 何事も始める時は大変ですが、スタートしてしまえば、苦労はありません。

**伊藤** 私は初めてのことで戸惑いました(笑)。

**小原** 伊藤さんは学校と地域の調整役なので苦労したと思います。地域の皆さんの教育に対する熱い思いを知ることができたのは良かったと思います。学校の応援団のようでとても心強いです。

**千田** 学校と定期的に教育について話す機会はこれまでありませんでした。学校が今どんなことを課題と感じている、何を求めているのか分かったことは大きい。地域としてできることはないかと考えるきっかけになりました。

**子どもも大人も共に学ぶ授業を**

―本年度はどのような活動を行いましたか。

**千田** 鬼柳小学校5年生に稲作体験を、2年生に命をテーマにした授業を行いました。また、通年で登下校の見守り活動も行いました。稲作体験では、春に田植えを、秋には稲刈りをしました。稲の成長を記録したり、個人研究を地域の文化祭で展示してもらいました。よく調べてあり感じしました。

**小原** 助産師による命の授業は大きな反響がありました。2年生が親子で参加し、「子どもを愛おしく感じた」など親も一緒に学び、考える機会となりました。

**千田** 親子で一緒に聴くことが良い体験になっているようですね。

―コミュニティ・スクールの体制づくりは怎么样了か。

**千田** 鬼柳地区では以前から、地域単独で、あるいは学校と一緒に育成活動を行ってきました。先行導入に当たっては、この従来の体制や取り組みを生かし、昨年2月に体制づくりを行いました。

**小原** 学校にも元々学校評議員制度という仕組みがありました

が、コミュニティ・スクールの導入に伴い、(鬼柳小、南小、南中で一つの協議会を新たに立ち上げました)。

**伊藤** 本年度から地域コーディネーターとして加わりました。5月に初めての全体会議の場を設け、従来の取り組みを継承することな



鬼柳地域コーディネーター  
伊藤成一さん



鬼柳町自治振興協議会  
千田秀一事務局長

※学校評議員制度…従来行ってきた保護者や地域の人から意向を聞く機能のこと。



## スタディ

# コミュニティ・スクールは地域と共に行う"学校づくり"

コミュニティ・スクールは、学校と地域が協働し、一緒になって進める教育活動です。令和3年度から黒沢尻北、相去、鬼柳地区の各小中学校と地域とで試験的に先行実施しています。令和4年4月からは、市内全ての小中学校と各地区でスタートします。

コミュニティ・スクールの特徴は、学校と地域をつなぐ「地域コーディネーター」が加わっていることです。

コミュニティ・スクールの活動には、地域学習や防災訓

練など生活圏に関わる活動のほか、登下校の見守りや授業補助などの教育環境の整備も

含まれます。自治振興協議会などの地域づくり組織だけでなく、住民

や保護者のほか、民間企業や団体など幅広い人たちが関わることで、子どもたちの学びや地域への愛着が深まります。

### 北上市の目指すコミュニティ・スクール

地域学習や防災訓練、キャリア教育、授業・部活動の支援などの教育活動に協働して取り組む。



詳しくは、各地区の交流センターや公共施設に置リーフレットをご覧ください(3月中を予定)。

先行地域の活動は、市民ライター記事で詳しくレポートされています。併せてご覧ください。



命の授業では、出産を親子で一緒に学ぶことで、より深い学びができた

ど、方針や計画を決めました。また、従来充実した取り組みを行ってきたことを地域に紹介しました。

—実際の運営はどうでしたか。

**千田** 全体会議は伊藤さんが中心となって2回ほど開催しました。

**伊藤** 小・中学校には月に2、3回仕事終わりに足を運び、校長や副校長と打ち合わせをしました。実際の活動にはこれまでの取り組みに参加してくれた方々に声を掛け、協力を仰ぎました。

**小原** 相談のために伊藤さん呼び出したこともありましたが(笑)。

**学校と地域が一緒になることのできる学びを**

—今後行いたい活動はありますか。

**伊藤** 子ども目線のイベントを企画したいと思っています。以前、更木の養蚕を見学するツアーを行ったことがあります。子ども

ならではの気づきに驚きました。

**千田** コロナ禍で中止した活動があり、来年度こそはと思っています。稲作は鬼柳地区の古来からの産業なので、成り立ちも教えたと思います。将来的に学校と地域の合同運動会も良いですね。

**小原** 高学年の子どもたちには、地域の人の生き方や生き様を感じてほしい。稲作体験も「なぜこの人は仕事を休んでまで教えてくれるのか」などと考えさせたい。これは学校だけでは教えられないことです。地域と一緒に防災訓練をする地域も手本にしたい。ただ、学校の授業には限りがあるので、欲張り過ぎず、計画的に行えればと思います。

—地域と一体になった学びならはのことですね。

**小原** アカデミックな学習だけでなく、人との関わり方や価値観など多様な学びが必要です。東日本大震災以降、学校教育に求められるものが変化してきました。地域によっては、住んでいる大人にとって子どもに教えることが生きがいになり、子どもも深い学びが得られるなどお互いに良い関係性が作れています。

**千田** 大人は子どもに接することが好きなんだと思います。子ども

から元気をもらいつつ、地域で子どもを育てるということですね。

**伊藤** インターネットを使った学習も必要ですが、実体験を伴った学びの場を作ることが大人の役割のように感じます。

—皆さんの思いや実情を伺って貴重な機会となりました。学校と地域が協働する「北上市の目指すコミュニティ・スクール」によって、子どもたちの学力向上だけでなく、地域教育力の向上や地域の活性化につながっていくと思います。ありがとうございました。



鬼柳小学校  
小原 純子 校長